

情報  
工学理科  
教育

研究職

高校教員

## 理系への勧め

藤井恵子（日本女子大学附属高等学校 物理教諭）

## 仕事のやりがい

日本女子大学附属高等学校の専任教諭として物理を教えています。多くのことを吸収できる多感な高校生の時間は貴重です。この時間を預かって授業をするのは、非常に責任の重いことですが、この時間を高校生の将来に良い影響を与えることができるチャンスとして生かすこともできるはず。いかにして、個々の生徒の人生に有意義な時間を提供するか、試行錯誤することが私のやりがいとなっています。

## 進路決定のきっかけ

大学院、国の研究機関で、医療を対象とした応用研究に携わっていました。学会活動などの経験を通して、理系の職種に従事している女性は少ないけれども、女性の人材は必要とされていることを強く感じました。また、研究職とは理系のセンスがあるごく一握りの人だけが取り組めるものと思われがちですが、理系のセンスはほどほどでも、粘り強く取り組むことで、価値のある研究が行えることを、自身の研究経験を通して知りました。これらのことを、多くの学生、特に女子学生に伝えることは、自分にしかできない重要な使命のように感じ、現職である高校の物理教諭になりました。

## 仕事と家庭とのバランス

仕事で疲れたときには、子どもと触れあうことで疲れを癒すことができます。中でも子どもの笑顔を見ると、肩に溜まった仕事の緊張感が、すーっと抜けていく感じがします。また、三人三様の子どもの要求に一日つき合っ、うんざりした日の夜には、パソコンにむかって落ち着いて物事を考えることでリフレッシュできます。このように、仕事を育児の、育児を仕事の息抜きにうまく利用することで、忙しくても精神的にはゆとりを持って生活することができています。

## 進路選択に対するメッセージ

自分の将来像が明確になっていないときに、理系進学か文系進学かを決めなくてはいけない状態に陥る人が多いと思います。そして、多くの人が理系教科に対する嫌悪感から、早々に文系進学に決め、理系教科の勉強を止めてしまいます。しかし、慌てないで下さい。可能な限り長く理系教科の勉強を続けてほしいと思います。なぜなら、もう少し辛抱強く続けていれば、理系教科を嫌いではなくなる可能性が大いにあるからです。理系教科は、細かい決まりごとが多い上に基礎固めに時間をかけるため、面白さがわかるようになるまでに時間と根気が必要です。また、世の中が科学技術の進展を担える人材を強く求めていることも、早々に文系進学を決めないでほしい理由の一つです。世の中の役に立っていることがわかりやすい仕事は、やりがいをもって取り組める仕事でもあるはず。

## &lt;藤井恵子（ふじいけいこ）プロフィール&gt;

- 1995年 日本女子大学家政学部理I学科（現、理学部数物科学科）卒
- 1997年 東京工業大学大学院総合理工学研究科修士課程修了
- 2000年 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了、結婚
- 2000～02年 通信放送機構赤坂リサーチセンター 招聘研究員、第1子出産
- 2003年～ 現在 日本女子大学附属高等学校 理科専任教諭
- 2006年 第2子出産、育児休暇（約1年）
- 2009年 第3子出産、育児休暇（約1年）

